

国際交流基金 中国「ふれあいの場」大学生交流事業への成果報告

<概要>

国際交流基金では、日中学生交流事業を行っており、日本と中国の高校生及び大学生に対し、年に2回ずつ大きなイベントを行っています。今回、そのイベントの上半期の部で、本学人文社会学部、国際地域創造学部の学生グループ（7名）によるイベント企画が採択されました。

国際交流基金が、中国の15ヶ所ほどの地域（大学）に、日本の文化を学べるように「ふれあいの場」という場所を設けています。特に、北京や上海などの大都市ではなく、内陸の地域や、日本からの留学生や駐在員が比較的少ない地域の大学に設置し、できる限り多くの中国の人々に日本文化を感じてもらうために作られています。日本から書籍や日本文化を学べる道具などを送り、大学生のみならず、地域の人々が日本文化に「ふれあう」場所として活用されています。

今回、本学学生たちのコンセプトとしては、日本文化の紹介はもちろん、特に「沖縄」という特徴を前面に出し、中国のみなさんに、沖縄（琉球）と中国のつながり、現在の沖縄における食文化、民俗文化、伝統芸能を紹介するイベントを企画しました。

全国公募によるもので、一次選考は、書類選考があり、二次選考は、メンバー全員参加によるオンライン面接がありました。今回は、最終的に採択されたのは4グループのみでした。

6月に採択通知を受けた後、7月から渡航先の中国青海省西寧市の青海民族大学の学生たちとのオンライン事前交流が始まりました。そのオンライン事前研修の内容も全て、本学の学生たちの企画したものでした。

8月には、東京の国際交流基金にて事前研修、9月には、東京で出発式を終えた後に中国へ渡航しました。戦後80年という節目の年に、中国への渡航、日本人によるイベント開催ということで、入念な準備と慎重な行動を求められ、学生たちにとっても、改めて学ぶことの多い時間となりました。

現地では、イベント準備、イベント当日、現地での見学などを経て、単なるイベント開催ではなく、日中文化の交流の中で、初めての土地での新しい発見、言語学習へのモチベーションのアップ、また人との繋がりを感じた日々になったようです。帰国後は、国際交流基金の主催で報告会も行われました。

イベント内容、実際に学べたこと、感じたことなどは、参加学生たちからの報告を楽しみにしていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

【12月24日 報告者】

- ・金城ひろみ
 - ・喜納政太（きな せいた）
 - ・仲宗根早希（なかそね さき）
- （陪席：新垣こはる）

中国「ふれあいの場」大学生交流事業 イベント企画提案書

沖縄×中国 ちゃんぷる一大作戦！
～文化の融合を通じた未来をつくる日中のふれあい～



目次

1. メンバー紹介
2. 企画のタイトル
3. 企画の概要
4. 渡航までの活動
5. 西寧での活動スケジュール
6. ふれあいの場に貢献できる要素

1

メンバー紹介

～食文化体験～



名嘉りおな

人文社会学部3年
準備・会場手配担当
踊ること



高良茉那

国際地域創造学部4年
撮影・編集担当
旅行

1

メンバー紹介

~伝統芸能交流~



仲宗根早希

人文社会学部3年
リーダー
琉球舞踊



喜納清夏

人文社会学部4年
準備・会場手配担当
三線



新垣こはる

人文社会学部3年
企画担当
沖縄巡り、三線

1

メンバー紹介

～伝統工芸体験～



喜納政太

人文社会学部4年
パワーポイント・広報担当
喫茶店巡り



南光有

人文社会学部 3 年
企画担当
ビリヤード

1

グループ名紹介



ちゃんぷる一族



グループ名の由来

さまざまなものを混ぜ合わせて炒めることを意味する沖縄方言「ちゃんぷるー」が由来。
多様な背景を持つ私たちが力を合わせ、沖縄文化を発信し中国文化を理解する交流を目指す。

2

企画のタイトル

沖縄×中国

「ちゃんぷるー大作戦！」

～文化の融合を通じた未来をつくる日中のふれあい～

企画のコンセプト

歴史的に深いつながりをもつ沖縄と中国だが、現代では若者同士の直接的な交流機会が限られ、特に中国地方都市では沖縄文化に触れる機会が少ないのが現状。

「ちゃんぷるー」をキーワードに、沖縄と中国の学生が互いの文化や価値観を尊重し合いながら交流を深め、“新たな国際交流のかたち”を創出することを目的とする。

3

企画の概要

本企画では、体験型プログラムを通じて相互理解と継続的な関係性を育むことを目指し、以下の3つの交流プログラムを展開する。



食文化体験



伝統芸能交流



伝統工芸体験

交流プログラム詳細

01

食文化体験

中国と沖縄の食材や調味料を混ぜ合わせたチャンプルー料理やジュシーを協力して作り、両者の食文化やその背景の歴史、生活文化等を楽しく学ぶ。

また、黒糖やちんすこうを提供し、他のブースを体験しながら、沖縄の伝統菓子に親しんでもらう。



02

伝統芸能交流

簡易版パーランクーの工作体験を行い、作成したパーランクーでエイサーと一緒に踊る。

沖縄をモチーフにしたフォトスポットを作成し、仲良くなった学生さん同士や各ブースで作成した作品をチェキに収める。



03

伝統工芸体験

沖縄の貝殻や星砂を使用し、海を連想させるボトルアートやフォトフレームと一緒に作成する。

部屋のレイアウトも海を感じさせるデザインにし、円になるように机や椅子を配置することで、両国の学生が活発にコミュニケーションを取れるよう工夫した。

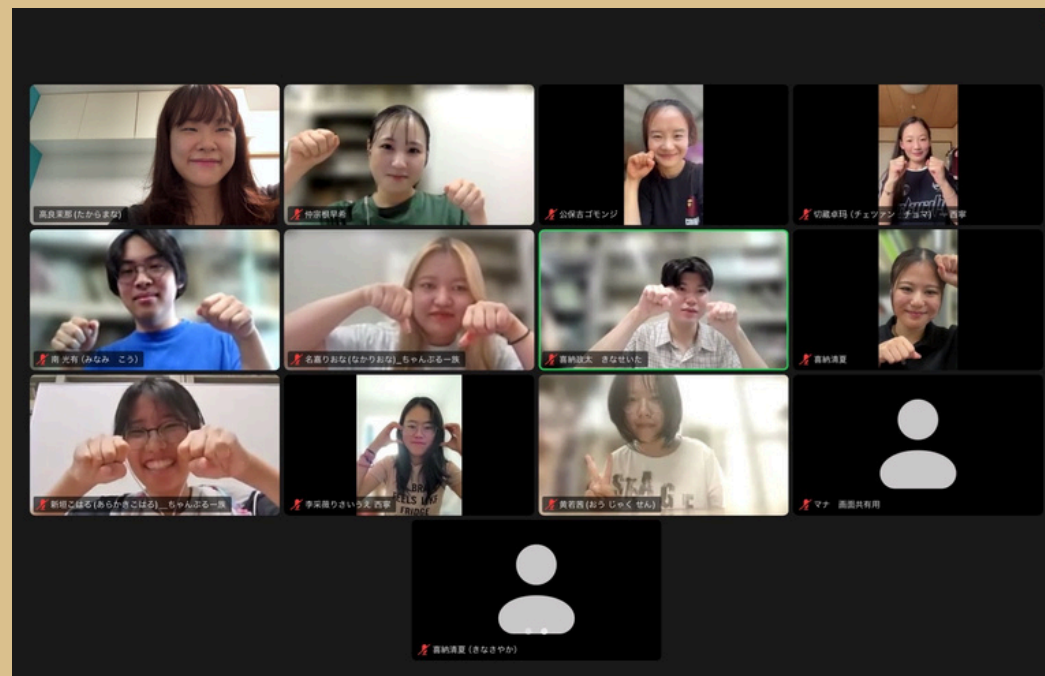


イベントの様子



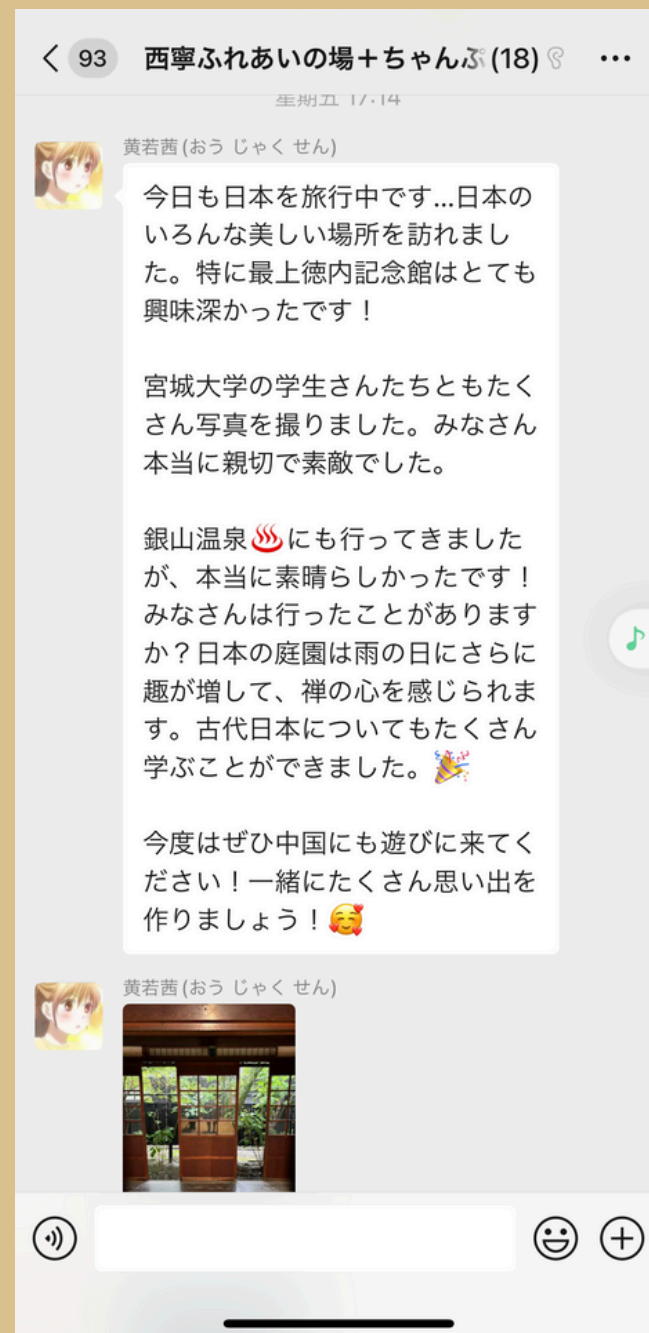
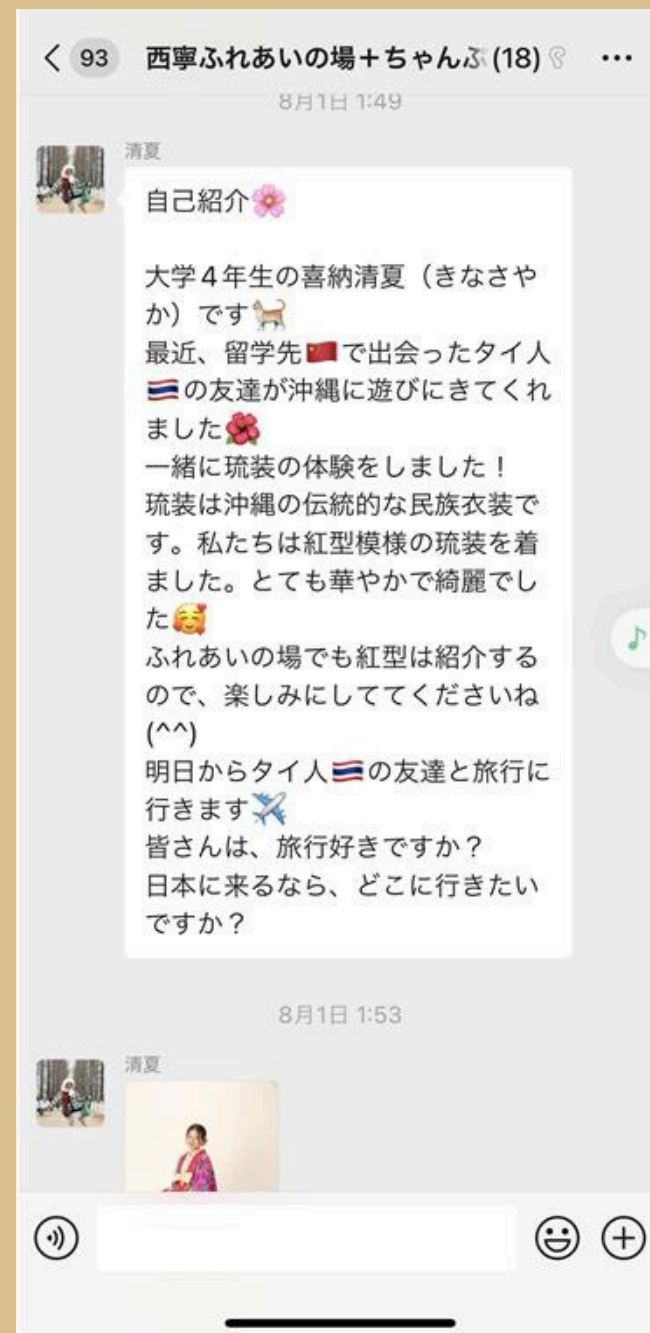
4

渡航までの活動 ①オンライン交流会



私たちは渡航までの期間オンライン交流会を通して中国の皆さんと異文化理解を深めていました。交流会は全4回行い、その中で沖縄の食文化、伝統芸能、伝統工芸についての理解を深めてもらいました。さらにそれぞれの文化を比較しながら交流することで、文化の違いや共通点を発見することができ、相互理解や親睦をより深めることができたと思います！

②WE CHATでのオンライン交流会



wechatを使ってちゃんぶる一族の学生と西寧の学生で交換日記を行ないました。自己紹介や最近の出来事、西寧位の学生への質問などを書き合いながら、お互いのことを知る機会になっています。やり取りを通して、沖縄の西寧の文化や生活の違いを実感でき、とても面白い交流になりました。



5

西寧での活動スケジュール

9月11日

西寧ふれあいの場へ到着

9月12日

イベント準備

9月13日

イベントの実地

9月14日

フィールドワーク

9月15日

帰国

9月12日：イベント準備

現地でのイベント準備

- ・ 全体としての会場設営
- ・ 各プログラムに対応したスペースの確保・レイアウト調整
- ・ 会場内の動線・安全対策の確認 参加者向けの内容説明資料の作成・配布
- ・ 受付・案内表示・装飾の準備



9月13日：イベント実施

開催地 青海民族大学 時間帯 9:00～16:00

9:00～ 食文化体験

12:00～13:00 ランチタイム♪

13:00～14:30 伝統芸能体験

14:30～16:00 伝統工芸体験

ふーちゃんぷるー、
ジューシーの調理体験
↓
作った料理を試食
（さんぴん茶とちんすこうを提供）
↓
パーランクー作りと
エイサーの踊り体験
↓
ボトルアートと
フォトフレーム作り

9月14日：フィールドワーク

タール寺、東関清真大寺、南関老街、青海省博物館

タール寺、東関清真大寺、南関老街、青海省博物館を巡りました。
タール寺ではチベット仏教の壮大な雰囲気圧倒され、壁画やバター彫刻の細やかさに感動しました。南関老街では活気ある市場や地元の食文化に触れ、人々の温かさを感じました。フィールドワークを通して西寧の多様性と魅力を改めて強く印象づけられ、心に残る体験となりました。



6

ふれあいの場に貢献できる要素

教育支援・語学交流

学生同士の語学交流を通じてお互いの文化的・慣習的なコミュニケーションを実践的に学び合う場を提供し、さまざまな価値観に触れることで、机上の学習では得られない“生きた知識”と国際的な視野を育むことを目指す。

日本・沖縄に対する理解促進

日本国内でも独自性を持つ沖縄文化を、体験型プログラムを通じて紹介することで、日本文化の多様性や奥深さを参加者に伝えることを目指す。こうした体験を通じて、参加者には日本を多角的に捉える視点が育まれ、より深い理解へとつながることが期待される。

安定した関係の構築

一過性のイベントにとどまらず、参加者同士が本企画をきっかけに相互理解を深め、交流後も互いへの関心を持ち続けることを目指す。継続的なつながりを通じて、将来にわたり国際的な視野を持ち、日中両国の架け橋となる人材の育成に繋げる。

ご清聴ありがとうございました

